

湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 リハビリテーション学科

名 前 下田 栄次

作成日 2023年8月31日

1. 教育の責任

教育の責任は、学生の成長と学習を支援し、知識やスキルを育てることにある。運動療法学概論から運動療法学基礎演習や運動器系理学療法学演習、選択科目となるバリアフリー、徒手療法まで、幅広い科目を担当し、学生の成長と学習を支援している。理論から実践までのスムーズな移行を促し、運動療法の基本原則や専門的なスキルを教授し、臨床的な判断力を醸成している。また、バリアフリーという科目を通じて、社会において理学療法士が果たすべき責任、役割を伝え、障害者への理解とバリアフリーな環境の重要性を強調している。さらに、8期生(現:2年生)のチューターリーダーとして学生の学習をサポートし、学生支援として保健室担当を担い、学生の健康と福祉に貢献している。また、理学療法実習室備品の管理を通じて学習環境を整え、学生たちの実践的なスキルの向上を支援している。これらの役割を通じて、学生たちの将来への準備と成功を支えている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念は、個々の学生の成長を支えつつ、専門知識と人間性を結びつけた教育を提供することである。学生中心のアプローチを重視し、彼らの主体的な学びを促進していきたいと考えている。実践的な学びを奨励し、理論と実際のスキルを融合させるために、ケーススタディやシミュレーションを導入し、アクティヴ・ラーニングを促進したい。また、学際的な視点を広げることを大切にし、他分野との連携を通じて広い視野を持つ能力を育成していく。個々の成長を尊重し、学生一人ひとりのニーズに合わせた支援を提供し、自己発見の機会を提供する。継続的なプロフェッショナル成長を追求し、最新の情報と知見を取り入れた授業を通じて、学生たちに最良の教育を提供する。学生たちが高い専門性と倫理的な視点を持ち、社会で貢献できる力を養うことを目指している。

2) 理念をもつに至った背景

個々の学生の成長を大切にし、専門的な知識と人間性を結びつけることを強調しているが、これに至る背景は、これまでの教育経験と個人的な信念、臨床観に基づく。多くの学生と関わりながら、一人ひとりの学習スタイルやニーズが異なることに気づき、単に情報を伝えるだけでなく、学生が自分自身で学びを深め、専門的なスキルを確立できるような環境を提供する必要性を感じている。また、臨床現場での経験も、実践的なスキルと理論の結びつきの重要性を示してくれている。専門的な知識だけでなく、人間性や倫理観も重要な要素だと考え、学生たちが専門家としてだけでなく、社会で貢献する個人として成長できるようサポートすることが使命だと考えている。患者やクライアントを通じて、技術的な能力だけでなく、思いやりやコミュニケーション能力も求められることを実感している。学際的な視点を持つことも、この理念の基盤となっている。特に私の専門とする災害危機管理では、他の分野と密接に関わっており、学際的なアプローチは問題解決能力を向上させると考えている。この視点は、学生たちが専門知

識だけでなく、幅広い視野を持って問題に取り組めるようにするためでもある。加えて、常に自己研鑽を重ね、教育の最新の手法や分野の進化に対応しようと努力している。学生たちに最高の教育を提供するために、自己向上と学びの継続は欠かせない要素だと考えている。

3. 教育の方法・戦略

学生中心のアプローチに基づき、専門的な知識と人間性を結びつけることを重視している。教育の方法として、学生が自主的に学び、考え、成長できる環境を提供する。実践的な学びと学際的な視点を組み合わせ、学生たちが知識を実際の状況に適用し、幅広い視野を持つことを促していく。教育の戦略として、①対話的な教授方法、授業では単に情報を伝えるのではなく、学生との対話を大切にし、ディスカッションや質疑応答を通じて、学生たちが自分の考えを深め、意見を交換する場を提供する。②実践的な学びの促進、理論だけでなく、実際のケースやシミュレーションを通じて実践的なスキルを養う機会を提供する。学生たちは現実の課題に直面し、解決策を見つけるプロセスを経験することができる。③学際的なアプローチの導入、理学療法は多様な分野と関わりがあるため、学際的な視点を持つことで、学生たちが異なる視点から問題を捉え、より豊かな解決策を見つける能力を養うことができる。④実践的なプロジェクトと協力、グループプロジェクトや実務実習を通じて、学生たちが協力やリーダーシップのスキルを磨く機会を提供する。実践的な場面でのチームワークを強化し、実際の状況に対応する力を養う。⑤個別のサポートと指導、各学生のニーズに合わせた個別のサポートを行う。面談やフィードバックを通じて、学生たちの進捗状況を把握し、適切なアドバイスや支援を提供する。また、⑥教材の開発とテクノロジー活用、これも重要であると考え。専門的な教材やケーススタディを用意し、授業に組み込むことで、実際の状況に対する理解を深める。テクノロジーを取り入れて対話的な学習環境を構築し、学生たちの関与を高める。

これらの方法と戦略を組み合わせ、学生たちが専門知識と倫理観を備え、専門家としてだけでなく、社会での貢献を果たせるような力を養うことを目指す。

4. 学習成果

私の教育活動に関連する論文の一部を以下に示す。これらの論文は、危機管理学領域や本学における教育活動(バリアフリーや理学療法管理学Ⅱ)における成果を示している。

・Eiji Shimoda: Construction of a support system for people requiring special care at evacuation shelters using Geographical Information System (GIS). Japanese Journal of Disaster Medicine 28(1) 12-18, 2023.

・下田 栄次: COVID-19 第 6 波に対する神奈川県湘南西部圏域における保健所支援活動報告. 理学療法 -技術と研究- 51 71-77, 2023.

・下田 栄次, 五十嵐 仁, 戸田 和之: 避難所および福祉避難所における整備状況と災害時要配慮者の受け入れに関する調査. 総合危機管理 6 53-63, 2022.

これらの論文は、災害医療や災害リハビリテーションにおける重要な課題や教育方法に関す

る知見を提供し、私の教育活動の評価と成果を示すものである。

5. 改善のための努力

①対話強化

学生との対話をより活発にし、彼らの意見や考えを尊重する。ホームルームの場で、ディスカッションやフィードバックセッションを増やし、学生の積極的な参加を促している。

②実践的なアプローチの強化

より多くの実践的なケーススタディやシミュレーションを導入し、問題解決能力を養う。症例に対するアプローチを考える臨床推論を強化している。

③テクノロジーの活用

本学が推奨している学習支援システム **manaba** を活用して、対話的な学習環境を構築し、学生同士の交流も促進し、リアルタイムでの情報共有を支援している。

6. 今後の目標

短期目標

対話的な学習環境の拡充として、**manaba** をさらに活用し、学生同士や教員との対話を増やす。学生たちが意見を交換し合い、深い学びを促進できる環境を整備する。実習の場面や国家試験取得後、実際の臨床に対応できる能力を養う。

長期目標

担当科目の講義内容の見直しとブラッシュアップとして、講義内容を見直し、より効果的な学習ができるよう再構築する。学生たちが基本的な専門知識だけでなく、応用力や問題解決能力も備えるようカリキュラムを最適化する。国際的な動向も取り入れて、異なる文化や視点を取り入れた教育環境を構築する。学生たちが国際的な視野を持つことで、より幅広いスキルを獲得できるよう尽力する。

【添付資料】

①国外への災害支援

- ・国際協力機構(JICA;Japan International Cooperation Agency) 国際緊急援助隊医療チーム(JDR;Japan Disaster Relief Team)隊員 (医療調整員,理学療法士)

②国内の災害支援

- ・一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会
JRAT(Japan Rehabilitation Assistance Team) 本部 広報委員/かながわ JRAT 事務局長
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会 代議員
- ・公益社団法人 神奈川県理学療法士会 理事(事務局 災害対策担当)
- ・公益社団法人 神奈川県理学療法士会 事務局 災害対策部 部長(兼任)
- ・かながわ災害福祉広域支援連絡協議会(神奈川 DWAT) 連絡調整担当
- ・神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議 委員
- ・国際医療技術財団(Japan International Medical Technology Foundation ;JIMTEF)
災害医療研修コース ファシリテーター

【著書(分担)・総説 等】

- 1) 下田栄次:【災害に強い糖尿病体制を作る】災害時における糖尿病患者さんへのリハビリテーション支援. DM Ensemble. 日経メディカル.東京.2021.10(3).21-23.
- 2) 下田栄次:災害時における避難所の環境調整. 標準理学療法学専門分野日常生活活動学・生活環境学(第6版).鶴見隆正・隆島研吾(編).医学書院.東京.2021.326-333.
- 3) 下田栄次:災害(専門職)ボランティアの役割と活動,平時(静穏期)に行う災害リハビリテーション研修体制.災害リハビリテーション標準テキスト.大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(編).医歯薬出版.東京.2018.22-24,123-131.

【論文】

- 1) Eiji Shimoda: Construction of a support system for people requiring special care at evacuation shelters using Geographical Information System (GIS). Japanese Journal of Disaster Medicine 28(1) 12-18, 2023.
- 2) 下田 栄次:COVID-19 第6波に対する神奈川県湘南西部圏域における保健所支援活動報告. 理学療法 -技術と研究- 51 71-77, 2023.
- 3) 下田栄次,坂上昇・他:災害時における福祉避難所の整備状況に関するアンケートとインタビュー調査による検討.総合危機管理.2021;5:27-35.
- 4) 下田栄次,大森圭貢・他:災害理学療法と災害リハビリテーション支援に関する理学療法士の意識調査.理学療法-技術と研究-.2020;48:61-69.
- 5) 下田栄次,松田梓:「平成30年7月豪雨災害」災害リハビリテーション支援活動報告-JRAT

- 災害対策東京本部における支援活動の実際と課題-.理学療法-技術と研究-.2019;47:91-99.
- 6) 西澤茂子,下田栄次・他:公益社団法人神奈川県理学療法士会における災害対策研修会の今後の課題 受講者によるアンケート結果からの検討.理学療法-技術と研究-.2019;47:71-76.
 - 7) 下田栄次,松田梓・他:「平成 28 年熊本地震」災害リハビリテーション支援活動報告ー公益社団法人神奈川県理学療法士会の取り組みと災害支援体制の構築に向けてー.理学療法ー技術と研究ー.2017;45:75-82.
 - 8) 下田栄次,隆島研吾:県士会(公益法人)の地域・防災システム構築と理学療法・士の役割.PT ジャーナル.2015;49:205-212.

【招待講演】

- 1) 下田 栄次:災害時におけるリハビリテーション支援について. 第 38 回神奈川県理学療法士学会 教育講演 .神奈川. 2022.
- 2) 下田栄次:災害時におけるリハビリテーション支援体制の構築. 第 115 回理学療法科学学会学術大会.神奈川.2021.
- 3) 下田栄次,丸山真範:災害と理学療法-支援から自立へ-第二期:応急修復期の対応.第 53 回日本理学療法学術研修大会.茨城.2018.
- 4) 下田栄次:災害時におけるリハビリテーション支援体制づくり,第 14 回かながわりハビリテーション・ケアフォーラム.神奈川.2017.
- 5) 下田栄次:地域防災における理学療法士が果たす役割,第 31 回神奈川県理学療法士学会.神奈川.2014.

【学会発表】

- 1) 下田 栄次, 隆島 研吾, 松本 肇,他:神奈川県平塚市の福祉避難所における感染症対策と災害時要配慮者支援に関する研究. 第 38 回神奈川県理学療法士学会.神奈川. 2022.
- 2)Eiji Shimoda, Azusa Matsuda,et al.:The assignments brought from the questionnaire regarding interprofessional working in disaster-Comparing the rehabilitation therapists with public health nurses-.The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine,Japan,2018.
- 3) 下田栄次,松田梓:平成 28 年熊本地震 災害リハビリテーション支援活動報告.第 22 回日本集団災害医学学会・学術集会.愛知.2017.
- 4) 下田栄次, 松本肇・他:公益社団法人神奈川県理学療法士会災害対策委員会の役割と活動報告.第 50 回日本理学療法学術大会.東京.2015.
- 5) Eiji Shimoda,Keisuke Hiruta,et al.:The expected roles of Rehabilitation in Community Based Disaster Prevention.The 12th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine,Japan,2014.